

作業負荷の軽減を目的としたレタス調製作業の改善

南淡路地域はレタスの栽培が盛んな地域である。収穫後の調製作業は手作業が多いため、体にかかる負荷が大きく、作業時間も長い。機械導入による効率化・省力化が難しいため、身近な資材を活用した作業改善に取り組んだところ、作業負荷が軽減した。

背景

レタスの外葉処理等を行う調製作業は、女性を中心であり、また少人数で行うことが多い。そこで、作業負荷の軽減を目指し、作業改善に取り組んだ。

取組内容と結果

作業者の動線や負荷がかかる調製作業の動きに着目して改善に取り組んだ（図）。

包装機に送るコンベアにレタスが滞留するのを防

ぐために、手作りの調製済レタス保管棚を設置した（写真1）。

また、作業者が手で箱にレタスを入れる作業を効率的にするため、レタスが箱の中へ転がり落ちるように改良した（写真2）。

その結果、作業者がコンベア前の調製作業位置から離れる回数と歩数が減少した（表）。

今後の方針

今後は、箱詰めめの改善を行い、作業体系の完成を目指す。また、女性農業者や集落営農組織等に調査内容や改善ポイントを紹介し、作業の効率化への意欲向上を図る。

横山 浩太朗（新温泉農業改良普及センター）
（前南淡路農業改良普及センター）
（問い合わせ先 電話：0796-82-1161）

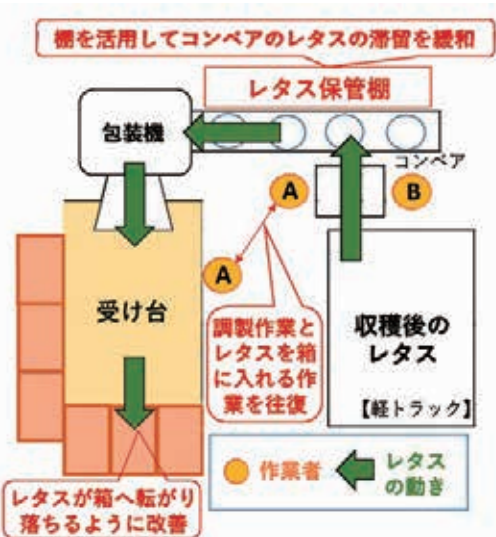


図 レタス調製作業改善の見取り図



写真1 設置した調製済レタス保管棚



写真2 傾斜をつけた受け台

表 30分間で作業者にかかった負荷の測定結果

	10月30日		11月4日	
	実証区	対照区	実証区	対照区
調製作業を離れた回数	9回	12回	6回	13回
歩数	74歩	78歩	76歩	112歩